

## 事後評価シート

調査研究課題名	空き家発生・分布メカニズムの解明に関する調査研究（その2）
担 当 者	主任研究官 上田章紘    客員研究官 秋山祐樹    研究官 伊藤夏樹 研究官 大内健太
① 当初目標と目標達成度	<p>戸別外観目視による空き家分布調査を行うには多大な人員、時間及び費用を要することが、自治体の空き家対策に係る障壁となっている。本調査研究は、空き家の分布を簡易に把握する手法の開発を目指すとともに、空き家の分布のメカニズムを考察することによって、この問題点に対応するとともに、都市空間の有効活用と空き家問題の解決に資する知見を獲得し、関係原局、自治体等へ提供することを目的とする。</p> <p>本調査研究では鹿児島市、福岡県朝倉市、大阪府枚方市の協力の下に調査分析を行い、空き家の分布を戸別外観目視によらずに様々なデータから簡易に把握する手法を開発するとともに、全国の自治体向けの手引き書を作成し、当初の目標を達成できたものとする。</p>
② 調査研究内容の妥当性	<p>放火による火災や不審者の侵入等の治安の悪化、自然災害時の倒壊の危険性、景観の悪化等、近隣住民や地域全体に深刻な影響をもたらす可能性がある空き家の適切な管理が求められている。このような背景を受けて平成26年11月に成立（平成27年5月施行）した「空家等対策の推進に関する特別措置法」は、市町村等に対して、空き家に関するデータベースの整備等を努力目標として課している。本調査研究は、この取組のために必要となる空き家の分布状況を簡易に把握する手法の開発等を目指したものであり、妥当性を有する。</p>
③ 調査研究の仕組みの妥当性	<p>随時、省内関係部局、自治体、関係団体・企業、有識者等から、調査研究の進め方、調査内容の妥当性やまとめ方について助言をいただきながら、調査研究を進めた。</p>
④ 成果と活用	<p>研究成果を報告書の形に取り纏め、自治体向けの手引き書とともに公表する。</p>
⑤ その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究内容を平成30年5月に開催された国土交通政策研究所研究発表会で報告した。</li> <li>・調査研究内容について、学会誌投稿を予定している。</li> </ul>